

激闘 大場(新庄北) V 2

距離女子5キロ
クラシカル

「パワーでガツガツ」 姉の意地

先行する選手と、抜きつ抜かれた展開。距離女子5キロクラシカルで優勝した大場友咲(新庄北)はレース後「苦しかった」と振り返った。昨年同種目を制した実力者は激しいトップ争いの末、泥臭く連覇をつかみ取った。15秒先にスタートした西塚結(北村山)を追い、3キロすぎに初めて前に出た。だが西塚も粘り強く、何度も前後が入れ替わる展開になった。大



距離女子5キロクラシカル、粘り強い滑りで頂点に立った大場友咲(新庄北)

山形市・坊平高原クロスカントリー競技場

ヒロイン

場は「最後まで競れば優勝できる」と信じて必死に追い、捉えた背中を離さなかった。前日の5キロフリーは3位。「全然納得いかない。得意のクラシカルで絶対優勝する」という思いが強くなり過ぎ、硬くなったという。だが「パワーでガツガツ滑る(大場)という持ち味を失わずに競り勝った。自信と課題を得て、昨年のインターハイは入賞。今年優勝したい」と力強く語った。妹の明咲(福原中1年)が前日の県中学総体スキー競技大会女子3キロフリーで優勝。同クラシカルも制し、刺激になった一方で「焦りもあった」と本音を語る。「(妹は)自分のようになりたいと言っている、逆にいつも刺激をもらっているのは私」と感謝を語り「お姉ちゃんの意地を見せられたかな」と笑った。(高野周平)

岸(新庄北) 最初から全開

距離男子10キロクラシカル

〇男子10キロクラシカルを制した岸益幹(新庄北)は「最初から飛ばそう」と決めていた。他選手を次々に追い越し、ゴール直前で上位を争う選手とデッドヒートを演じた。終盤でも力を緩めずに踏ん張り、2位を2秒7差でかわして頂点に立った。

「調子が良かった」と出足は軽快だったが、15秒先にスタートしていた松田悠真(新庄南金山)

には「追い越してもすぐ後ろにつかれ重圧があった」と岸。競り合って2周目の標高最高地点で疲労はピークに達した。くじけそうになった時、高橋鉄也監督の声が聞こえた。「ここからだ。負けるな」。再びギアが上がった。

優勝につながったのは勝負どころで粘り強い滑りができたからこそ。「良かった」とほっとした様子を見せた後、「全国では優勝を狙って頑張りたい」とすぐに気合を入れ直した。(高野周平)



距離男子10キロクラシカル、競り合いのレースを制した岸益幹(新庄北) (撮影・高橋直大)